

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (1)職務の理解 | | | |
|-------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について理解する。この指導を通じて、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①多様なサービスと理解 | 2. 0 | 2. 0 | 0. 0 | <講義の内容> ・多様なサービスと介護職の仕事 ・キャリアパスの資格取得要件 ・事業所等における OJT・Off-JT 上記の事項について、講師が講義する。 |
| ②介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 4. 0 | 4. 0 | 0. 0 | <講義の内容> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的な様子 上記の事項について、講師が講義するほか、実習として弊社施設を見学する。 <実習実施方法> ・下記の弊社施設を 2 時間程度見学する。 みとうデイサービスセンターさくら みとうグループホームおりおの みとう多機能ホームおりおの (いずれも大阪府大阪市住吉区遠里小野 6 - 1 - 1 0) |
| (合計時間数) | 6. 0 | 6. 0 | 0. 0 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第 1 分冊 理念と基本』 第 1 章「職務の理解」 介護職員初任者研修 補助教材 DVD |
|------------|---|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、3 0 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (2)介護における尊厳の保持・自立支援 | | | |
|--------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点、及びやってはいけない行動の例を理解している。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①人権と尊厳を支える介護 | 4. 0 | 1. 5 | 2. 5 | <通信学習課題の内容> ・ ICF (国際生活機能分類) ・ QOL (生活の質) ・ ノーマライゼーション ・ 虐待予防・身体拘束禁止 ・ 個人の権利を守る制度の概要 <講義の内容> ・ 人権と尊厳の保持 上記の事項について、人権擁護の点も踏まえながら講師が講義する。 |
| ②自立に向けた介護 | 3. 0 | 0. 5 | 2. 5 | <通信学習課題の内容> ・ 自立支援 自立支援のための介護方法 ・ 介護予防 <講義の内容> ・ 自立支援 専門職として求められる「自立」と「自律」 上記の事項について、人権擁護の点も踏まえながら講師が講義する。 |
| ③人権啓発に係る基礎知識 | 2. 0 | 2. 0 | 0. 0 | <講義の内容> ・ 人権とは何か ・ 人権擁護への取組みの事例 上記の事項について、講師が講義する。 |
| (合計時間数) | 9. 0 | 4. 0 | 5. 0 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 理念と基本』 第2章「介護における尊厳の保持・自立支援」 |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (3)介護の基本 | | | |
|------------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 2.0 | 0.5 | 1.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の専門性 利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護 ・介護に関わる職種 <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴 ・介護の専門性 重度化防止・遅延化の視点、事業所内のチーム、多職種から成るチーム、医行為と医療的ケア <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> |
| ②介護職の職業倫理 | 1.0 | 0.5 | 0.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守 ・利用者の個人の尊厳と介入 ・日本介護福祉社会の倫理綱領 <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守 ・利用者の個人の尊厳と介入 ・日本介護福祉社会の倫理綱領 <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> |
| ③介護における安全の確保とリスクマネジメント | 2.0 | 1.0 | 1.0 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策 <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・緊急時に必要な知識と対応方法 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p><演習実施方法></p> <p>「リスクマネジメント」について、グループに分かれ、グループディスカッションを行う。</p> |

| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
|----------|-----|-------------------|-------------------|---|
| ④介護職の安全 | 1.0 | 1.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理 ・介護職に起こりやすい健康障害 ・腰痛予防 ・感染症の予防 ・ストレスマネジメント <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習として一部の体操などを受講者が実際に行い、理解を深める。</p> <p><演習実施方法></p> <p>腰痛体操やボディメカニクスについて、講師の指導のもと、受講者が実際に行う。</p> |
| (合計時間数) | 6.0 | 3.0 | 3.0 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 理念と基本』 第3章「介護の基本」 |
|------------|---|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携 | | | |
|---------------------|---|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①介護保険制度 | 3.0 | 0.5 | 2.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景と目的・動向 ・介護保険制度の仕組みと基礎的理解 ・医療保険制度の概要 ・年金保険制度の概要 <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の財源、組織・団体の機能と役割 <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> |
| ②医療との連携とリハビリテーション | 3.0 | 0.5 | 2.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養、吸引、吸入、浣腸など ・健康チェック <p>健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術、全身観察、体温・脈拍・血圧・呼吸の測定による観察の方法、他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護 ・リハビリテーション医療の意義と役割 ・リハビリテーション医療の過程 ・訪問・通所・地域リハビリテーション <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の服薬と留意点 ・経管栄養、吸引、吸入、浣腸など ・健康チェック <p>体温・脈拍・血圧・呼吸の測定による観察の方法</p> <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習として受講者がバイタルチェックを行い、理解を深める。</p> <p><演習実施方法></p> <p>体温や脈拍の測定などのバイタルチェックを、講師の指導のもと、受講者が実際に行う。</p> |
| ③障がい者総合支援制度およびその他制度 | 3.0 | 0.5 | 2.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度創設の理念・背景と目的 わが国の法律で定める障害の捉え方、障害者（児）福祉の背景と動向 ・個人の権利を守る制度の概要 <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度創設の理念・背景と目的 障害者雇用と就労状況 ・制度の仕組みと基礎的理解 <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> |
| (合計時間数) | 9.0 | 1.5 | 7.5 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解』 第4章「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」 体温計など |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (5)介護におけるコミュニケーション技術 | | | |
|----------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを把握してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識する。この認識を踏まえ、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①介護におけるコミュニケーション | 3.0 | 1.5 | 1.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義と目的、役割 ・コミュニケーションの手段と技法 <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族への対応の基礎知識 ・利用者・家族への対応の実際 ・利用者の状況・状態に応じた対応 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習として受講者間のロールプレイングを行い、理解を深める。</p> <p><演習実施方法></p> <p>受講者を班に分け、講師の指導のもと、介護職・利用者・家族のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p> |
| ②介護におけるチームのコミュニケーション | 3.0 | 1.5 | 1.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録による情報の共有化 ・報告・連絡・相談 ・コミュニケーションを促す環境 <p>ケアカンファレンス、サービス担当者会議</p> <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを促す環境 <p>会議の種類と会議に臨む姿勢、事例研究・事例報告</p> <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習として受講者間のロールプレイングを行い、理解を深める。</p> <p><演習実施方法></p> <p>受講者を班に分け、講師の指導のもと、業務上のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p> |
| (合計時間数) | 6.0 | 3.0 | 3.0 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解』 第5章「介護におけるコミュニケーション技術」 |
|------------|---|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (6)老化の理解 | | | |
|-------------------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①老化に伴うこころとからだ の変化と日常 | 3.0 | 1.5 | 1.5 | <通信学習課題の内容> ・老年期の発達と心身の変化の特徴 加齢と老化の概念 ・心身の機能の変化と日常生活への影響 身体的変化、心理的变化 <講義の内容> ・老年期の発達と心身の変化の特徴 人格と尊厳、老いの価値、性役割と老年期の性 ・心身の機能の変化と日常生活への影響 老化に伴う心身の機能の変化、身体的変化、心理的变化 上記の事項について、講師が講義する。 |
| ②高齢者と健康 | 3.0 | 1.5 | 1.5 | <通信学習課題の内容> ・高齢者の疾病（老年症候群）と生活上の留意点（外科系） 老年症候群とは、老年症候群の早期発見、運動器の機能向上、口腔機能の改善、低栄養の改善 ・高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系） 骨や関節の病気、眼と耳の病気、皮膚の病気 <講義の内容> ・高齢者の疾病（老年症候群）と生活上の留意点（外科系） 認知機能を高める、尿失禁の改善 ・高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系） 生活習慣病、脳神経系の病気、循環器系の病気、呼吸器の 病気、肝臓・胆道系の病気、腎・泌尿器の病気、精神の病 気 上記の事項について、講師が講義する。 |
| (合計時間数) | 6.0 | 3.0 | 3.0 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解』 第6章「老化の理解」 |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (7)認知症の理解 | | | |
|-----------------------|---|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 介護において認知症を理解することの必要性を認識し、認知症の利用者を介護する際の判断の基準となる原則を理解している。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①認知症を取り巻く状況 | 1.0 | 0.5 | 0.5 | <通信学習課題の内容> ・認知症ケアの理念 認知症ケアの理念、パーソンセンタードケア <講義の内容> ・認知症ケアの理念 認知症ケアの視点 上記の内容について、講師が講義する。 |
| ②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | <通信学習課題の内容> ・認知症の概念と原因疾患・病態 認知症の概念、認知症の中核症状、認知症の原因疾患の診断、認知症と間違えられやすい症状、認知症についての最近の話題 <講義の内容> ・認知症の概念と原因疾患・病態 認知症の治療、認知症についての最近の話題 ・原因疾患別ケアのポイントと健康管理 上記の内容について、講師が講義する。 |
| ③認知症に伴うことからの変化と日常生活 | 2.0 | 0.5 | 1.5 | <通信学習課題の内容> ・生活障害、心理・行動の特徴 <講義の内容> ・利用者への対応 上記の事項について、講師が講義する。 |
| ④家族への支援 | 1.0 | 1.0 | 0.0 | <講義の内容> ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア） 上記の事項について、講師が講義する。 |
| (合計時間数) | 6.0 | 3.0 | 3.0 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解』第7章「認知症の理解」 |
|------------|---|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5
商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (8)障がいの理解 | | | |
|---|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 障害の概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方のほか、介護における基本的な考え方について理解している。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①障がいの基礎的理解 | 1. 0 | 0. 5 | 0. 5 | <通信学習課題の内容> ・ 障害者福祉の基本理念 ・ 障害の概念と国際生活機能分類 (ICF) <講義の内容> ・ 障害者福祉の基本理念 ・ 障害の概念と国際生活機能分類 (ICF) 上記の事項について、講師が講義する。 |
| ②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | 1. 5 | 0. 5 | 1. 0 | <通信学習課題の内容> ・ 内部障害 ・ 視覚障害・聴覚障害 ・ 精神障害 ・ 統合失調症 ・ 躁うつ病等 ・ 神経症性障害 (神経症) ・ アルコール依存症 ・ 知的障害 ・ 発達障害 ・ ダウン症 <講義の内容> ・ 肢体不自由 (身体障害) ・ 内部障害 ・ 音声・言語・咀嚼機能障害 ・ 高次脳機能障害 上記の事項について、講師が講義する。 |
| ③家族の心理、かかわり支援の理解 | 0. 5 | 0. 5 | 0. 0 | <講義の内容> ・ 介護する家族の遭遇するストレス ・ 障害の理解と受容支援 ・ 介護負担の軽減 上記の事項について、講師が講義する。 |
| (合計時間数) | 3. 0 | 1. 5 | 1. 5 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行『介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解』第8章「障害の理解」 |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導體制を記載すること。

シラバス

指定番号 5

商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| 科目番号・科目名 | (9)こころとからだのしくみと生活支援技術 | | | |
|-----------------------------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ア 基本知識の学習 ①介護の基本的な考え方 | 2.5 | 1.0 | 1.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づいた介護 ・法的根拠に基づく介護 <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づいた介護 ・法的根拠に基づく介護 <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> |
| ア 基本知識の学習 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 5.0 | 1.0 | 4.0 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> |
| ア 基本知識の学習 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 5.0 | 1.0 | 4.0 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康チェックとバイタルサイン ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識 骨、関節、筋肉 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識 <p>ボディメカニクス</p> <p>上記の事項について、講師が講義する。</p> |
| イ 生活支援技術の講義・演習 ④生活と家事 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と家事 ・家事援助の基礎知識と生活支援 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、講師の指導のもと、生活支援に関するロールプレイングを行う。</p> |
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑤快適な居住環境整備と介護 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・介護保険による住宅改修 ・福祉用具に関する基礎知識 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習として福祉用具の利用などを行う。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、講師の指導のもと、福祉用具の利用などを行う。</p> |

| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
|---|-----|-------------------|-------------------|---|
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、整容のうちの衣服着脱などのロールプレイングを行う。</p> |
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗のための用具と活用方法 ・負担の少ない移動・移乗と支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、車いすの移乗などのロールプレイングを行う。</p> |
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備と用具の活用方法 ・楽しい食事を阻害する要因と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、食事介助などのロールプレイングを行う。</p> |
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴と清潔保持に関する基礎知識 ・入浴と整容の用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害する要因と支援方法 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、入浴介助などのロールプレイングを行う。</p> |
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因と支援方法 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、排泄介助などのロールプレイングを行う。</p> |

| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
|--|------|-------------------|-------------------|--|
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑪睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.0 | 6.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因と支援方法 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイングを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、体位変換などのロールプレイングを行う。</p> |
| イ 生活支援技術の講義・演習 ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | 4.0 | 4.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程とこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援と他職種との連携 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてロールプレイング、ディスカッションを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、誤嚥を防ぐための介助などのロールプレイングや、終末期の心理・介護に関する考え方などのディスカッションを行う。</p> |
| ウ 生活支援技術演習 ⑬介護過程の基礎的理解 | 6.5 | 4.0 | 2.5 | <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の基礎的理解 <p>科学的思考と介護過程、介護過程の展開に必要な構成要素</p> <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の基礎的理解 介護過程の展開に必要な構成要素 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習としてグループディスカッションを適宜実施する。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ、複数の事例を活用してグループディスカッションを行う。</p> |
| ウ 生活支援技術演習 ⑭総合生活支援技術演習 | 4.0 | 4.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合生活支援技術演習 <p>上記においては、「事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題」の順に、2時間程度で検討を進める。検討は、演習としてグループディスカッションの形式で行う。</p> <p>事例は、認知症と片麻痺の2例を扱う。</p> <p><演習実施方法></p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれてグループディスカッションを行う。</p> |
| (合計時間数) | 75.0 | 63.0 | 12.0 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行「介護職員初任者研修テキスト」 ベッド、車いす、ポータブルトイレ、簡易浴槽など |
|------------|---|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 5
商号又は名称：みとうメディカル株式会社

| | | | | |
|---------------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 科目番号・科目名 | (10)振り返り | | | |
| 指導目標 | 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ①振り返り | 3.0 | 3.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、実習として受講者間で体験を見直すために弊社施設を見学する。</p> <p><実習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の弊社施設を2時間程度見学する。 みとうデイサービスセンターさくら みとうグループホームおりおの みとう多機能ホームおりおの (いずれも大阪府大阪市住吉区遠里小野6-1-10) |
| ②就業への備えと研修修了後における実例 | 1.0 | 1.0 | 0.0 | <p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例 (Off-JT, OJT) を紹介 <p>上記の事項について、講師が講義するほか、演習として事業所における介護職の体験談を語る場を設ける。</p> <p><演習実施方法></p> <p>弊社の社員が、事業所において介護の業務に従事した体験談を語り、適宜質疑応答を行う。</p> |
| (合計時間数) | 4.0 | 4.0 | 0.0 | |

| | |
|------------|--------------------------------|
| 使用する機器・備品等 | (財)介護労働安定センター発行「介護職員初任者研修テキスト」 |
|------------|--------------------------------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。